



防災献立から学ぶ

先週2日(木)の給食に、「防災献立」が登場しました。防災献立について給食委員会が動画をまとめてくれているのでそれを各学級で視聴しています。動画は以下の様な内容でした。

11月5日は内閣府が定める「津波防災の日」です。地震や台風などの災害などに備えて日頃から準備しておくことが大切です。そのための「ローリングストック」が役立ちます。これは、電気・ガス・水道などが使えず料理ができなかったときに、普段から少し多めに食品を買っておき、使ったらその分を新しく買い足すことで常に一定の量の食材を家に蓄えておく方法です。このローリングストックですが、備蓄の目安としては家族の人数×最低3日分だそうです。例えば水ですが、一日に3L必要とされていますので、3日分だとしたら9L必要です。これを家族の人数分備えておく必要があるという訳です。また、備蓄に向いている食材のクイズもありました。缶詰やレトルトカレー、インスタント食品などの①長もちする物 ②簡単に食べられる物 ③持ち運びしやすい物 ④栄養のある物 などがいいそうです。

そこで「防災献立」の出番です。ストックしておくのに向いている食材が使っており、メインは備蓄ツナカレーでした。カレーにはツナ缶や高野豆腐、大豆がつかっています。また、乾燥していて栄養のある切り干し大根を使ったサラダ、桃の缶詰も副菜として登場しました。美味しい上に栄養たっぷりの給食に舌鼓を打ちながら、防災への備えの意識も高まり、充実した給食の時間となりました。給食室の先生方、給食委員会の皆さん、ありがとうございました。

ローリングストックってしてる？

たくわえる ローリングストックとは・・・

いざというときのために、普段の食品を少し多めに買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足すことで、常に一定の量の食材を家にたくわえておく方法です。

×3日分

目安=家族の人数×最低3日分

◆ 今日のこんだて ◆

- ・ごはん
- ・ぎゅうにゅう
- ・備蓄ツナカレー
- ・切り干し大根のサラダ
- ・もも缶

「津波防災の日」とは？

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)を教訓とし、国民の津波に対する理解と関心を高めるために、毎年11月5日を「津波防災の日」にすることが制定されました。

その後、2015年12月22日に行われた国連総会本会議で、日本をはじめとする142か国が共同提案国となり、11月5日を「世界津波の日」に制定することが決定されました。なぜ、11月5日かというと、1854年(安政元)年11月5日に起きた安政南海地震で、大津波が和歌山県を襲った際に、濱口梧陵が稲わらに火をつけて、村人を高台に誘導し命を救った「稲むらの火」の逸話にちなんでいます。



因みに1946年のアリューシャン地震で、ハワイに津波の大被害があった際、日系移民が「TSUNAMI」という言葉を多用したことでハワイでこの言葉が浸透し、世界中に広まりました。1968年にはアメリカの海洋学者であるウィリアム・G・ヴァン・ドーンが学術用語として使うことを提案し「TSUNAMI」は、国際語となったのです。